

## 久御山高校を希望するみなさんへ

現在京都府の高等学校では、国際化、情報化、高齢化などの社会の変化、生徒の個性化・多様化に対応して、様々な特色ある学校が作られています。たとえば単位制高校や総合学科、総合選択制、理数系に特化した専門学科等です。

違いは何でしょうか。それは選択科目数にあります。高校で学ぶ教科科目の単位数は90単位程度とすると、単位制（総合学科を含む）では約半分を生徒が自由に選択できる科目にします。専門学科はその選択科目の内25単位以上専門教科で固定します。前者は生徒の自由を最大限尊重するシステムですし、後者は中学卒業時に将来の希望進路を決めている生徒には、専門的な学習ができるシステムです。

久御山高校は普通科ですから、必修科目（必ず修得しなければならない教科科目）を80単位、選択科目数を10単位程度として、学校が最もふさわしい教科をかなり指定します。簡単に言えば、単位制はバイキング料理、専門学科はコース料理を食べるようなものです。当然バイキングは好きなものだけを食べるわけですから、栄養に偏りが出てくることも考えられますし、コース料理は途中から変更はできません。普通科は、事前に最も必要な栄養を計算したオーソドックスな料理で、従来から将来の様々な進路選択に対応できる教育課程と言えます。

また大学全入時代（希望する大学を選ばなければ、大学の入学者総数が高卒者数を超え、どこかの大学に入学できる）の大きな課題は、今や11%に上る大学中退率の高さです。不本意入学や旧態然とした大学教育の在り方にも問題があるのですが、一番の課題は、生徒の学習意欲の欠如にあります。また基礎学力が付いていなかったり、学問に対する甘えや将来に対するしっかりとした人生観が高校時代に育っていないことも指摘されています。

久御山高校は、こうした状況を踏まえ、普通科教育の中で再度どのような高校教育をするかを考えてみました。学校教育の基本はご存じのように「知・徳・体」を育み、社会的に自立させることです。久御山高校は、この三要素を踏まえた上で、高校時代に育てたい生徒像として、21世紀をリードする知識と教養の育成、心豊かな人格の涵養、あらゆる困難を乗り越えるたくましい心と体をつくることが必要と考えました。そのためには、しっかりとした教育課程と3年間を見通したキャリア教育（望ましい勤労観・職業観を育成し、社会人・職業人として自立を促す進路指導を含む教育）、そしてたくましい心と体をつくる部活動が重要と考えています。教育課程とキャリア教育は、京都府教育委員会から教育課程特例校の指定を受け、より将来を見据えた内容に見直しを図りました。さらに入学時のⅠ類・Ⅱ類のクラス編制をやめ、学年毎に進路別習熟度別クラス編制にしております。さらに本校は、在籍生徒の8割以上が部活動に積極的に参加し、勉強との両立に努力し、明るくさわやかな気持ちのよい高校生活を送っています。その結果、中退率は0に近く、生徒の規範意識も高く問題行動もほとんど見られない落ち着いた教育環境を形成しています。一般に文武両道といわれますが、本校では特に「英知」と「情熱」をテーマに、高い知性とスポーツマンシップを育む教育に力を入れています。今夏にある全国高等学校総合体育大会奈良大会には、サッカー、剣道部が京都府の代表として出場いたします。

本年は、海外の研修旅行を実施するとともに創立30周年記念事業として中庭に「同窓のひろば」を整備し、校訓「自学・自律・自鍛・共助」に基づいた久御山の教育を力強く推し進めたいと考えております。

このような活気にあふれる学校で高校時代の思い出をつくり、自分の夢を見出し、将来の礎を築いてみませんか。価値ある有意義な青春を送りたいと願うみなさんの受験を心から待っています。